

第1回学習講演会 2018年3月17日 「ウイングを広げる課題を探る」

芹田健太郎・神戸大学名誉教授

(国際法、国際人権法 CODE 海外災害援助市民センター代表理事)

1. 仲間内の議論と独りよがり

- ・大同小異と五十歩百歩。
しかし、小異を捨てて大同に就く、あるいは、小異を残して大同に就く（求大同、存小異）
- ・人間はひとりとして、同じ人はいない。
- ・元文科省次官の学校での講演に対して、文科省が名古屋市教委に調査の電話をした事件は、調査権の行使自体が違法行為の恐れがあったケースと言える。このように、教育界が画一化されていくのは、人類にとって最大の脅威だ。
- ・今年「世界人権宣言」70周年に当たる。この宣言は「ひととは、生まれながらにして平等である」と宣言し、人間はすべてヒューマンな存在であるとする。この宣言の流れをほぼ汲んでいる日本国憲法は、すべての国民は一人ひとりの個人として尊重されることを謳っている。平和・人権・民主とひと言でいうが、人間とは何なのか、人間をひとくくりの存在としていいのかが問われる。
- ・いま私たちが言葉を掲げるとき「人権・平和」と言うだけでは、人々のところに響かない。「ウイングを広げる」というときに、縦、横にウイングを広げるのだが、言葉が独りよがりになってはいないか？ 人々の本当の心につながる言葉を発信しているかどうか、大事だ。「みなせん」という言葉自体が、一般の人々に理解できない言葉になっていないかどうかを考えることが大事だ。
- ・「野党の連携」について、与党は「野合」と言う。「野合」批判はいつも与党から出る。「野合」とは、理念のない、選挙のためだけ一緒になることを指している。実際にはそうではないのに「野合」批判が行われる。一人ひとりとは同じではないが、何かで一緒にやれることはある。これを追求することで、野合批判を乗り越えられるのではないか。

2. 政党と選挙の世論調査に見る現実

①投票率

衆議院 最高 77% 最低 54% 平均的には約7割程度

参議院 最高 75%弱 最低 45%弱 平均的には6割程度

②政党支持率（2018年3月、NHK放送文化研究所による政治意識月例調査）

自民 36.3% 公明 2.1%

野党 15.3% （立民 10.2、希望 0.6、民進 1.2、共産 2.6、社民 0.7）

無党派 37.9% 無回答 5.9%

◇本日 3/17 報道の時事通信世論調査

自民 25.2%、公明 2.9、立民 5.3、共産 2.6、民進 1.6、希望 0.2、政党支持なし 58.3

⇒ウイングを広げる対象は、無党派層（政党支持なし層）にあることは明白だ。

③政党不信（NHK「転換期の政治意識 2002年調査」から）

- ・90年代初めから政治への不満は強まって、高い水準にある。
- ・2002年では72%に上る どちらかと言えば不満 49% 不満 23%
- ・国民の声を反映しない政治

- ・組織に対する信頼度 テレビ、新聞 80% 地域の役所 71% 裁判所 67% 政党 21%
- ・情報化社会の情報収集方法の落とし穴
 - ⇒好きな情報だけに接し、集める。ついでの情報がない。
 - 新聞はついでの情報。立て看板は自治体が締めつけ始めて「キャンパスに限る」情報の流れが偏ってきている。公文書改ざんの前に、情報が制約されている。
 - 大学でさえも、キャンパスに閉じ込める。
 - こうした情報の制約に対して、社会は鈍感になってきている。

3. 我々の民主主義の限界

- ①「国家・地方（統治）vs 個人（私企業）」体制（関係）から
「国家・地方（統治）—中間団体—個人」の関係へ変化する時代
⇒国や地方の統治機関と中間団体によって「公益」を分担する時代へ来ている。
 - ・「公益」を選択し、議決により「確定」していく仕組みは、「最大多数の最大幸福」を生む。
 - ・こうした多数が支配していく「多数決原則」が、必ずしも人々を幸せにできない時代の到来。
- ②多数を占める穏健多数派に、どう関わっていくか？
- ③フリーライダーの存在と、投票できない人たちの声をどのように吸い上げるか？
 - ・断固として選挙には行かない。社会の問題に何も関わらないが、利益は享受している層。

4. 100人の村なら、最大多数は99人

- ⇒「最後の一人」の声は、どのように反映されるのか？ 誰がそこへ赴くのか？
- SDGsは、誰も取り残さない（no one will be left behind）と言うが
- ・一人の人間という存在を切り捨てていいのか？
- 戦後の労働運動は、組織内だけを守るという組織になっていたきらい。
- 障害者の権利条約は、一人ひとりに着目し、その権利を大事にする。
- 基本的には、自由と平等、平和の考え
- 出発点としての平等や人権は大事だが、そこから先、どのように意見を伝えていくのか。

5. 終わりに

- ①広いネットワークの構築
 - ・現実社会の淀み、停滞、窒息感
 - 大人の感覚だけでなく、ボランティアとして取り組む若い人たちの声を拾い上げねば、ウイングは広がらない。
 - ・若者の爆発的エネルギーをどう吸収するか
 - ・老、壮、青 上は支え、下ははつらつとして動く
 - ・障害者や、ほかの弱者
- ②大胆に、若者の声を吸い上げる
 - ・NGOやNPOは、多くの若者を吸収している
 - ・高校生をはじめ、ボランティア活動には若者が増えている。CODEでは高校時代から参加していた人たちが、いまは30歳代に。
 - ・ウイングを広げるには、若者へのアプローチが大事
 - ・同時に経済的に安定した層が6～7割いないと、その社会は安定しない（経済政策も）

（文責・松本誠）